

アガペワールド



London
Keiko C Holmes
35 Leyburn Gardens
CR0 5NL London
E: agape.kingdom@gmail.com
Tel: +44(0)20 8686-4263
www.agapeworld.org

日本
小菅啓子
横浜市南区中村町5-308-12
E: victory8068@gmail.com
Tel: 090-1266-3390
www.agapeworld.org.jp

アガペワールド関係者の皆様

日本での約1ヶ月の滞在を終えて、5月30日にロンドンに戻りました。日本の気候は素晴らしかったのですが、一方、ロンドンでは帰って数日は寒い日が続きました。その後は暑かったり涼しくなったりを繰り返して、7月に入ってからは、素晴らしく過ごしやすい気候が続いています。日本ではみなさんにたいへんお世話になりました。おかげさまで充実した楽しい日々でした。いつもご支援いただき、心から感謝しています。みなさんに豊かな祝福がありますように。

なお、ニュースレターでは紙面の都合上敬称を省略させていただいています。ご了承よろしくお願ひします。

我家の庭が姿を変えて生き返りました。イギリスではたいていどこの家にも前と後ろに庭が付いています。忙しい年月が続き、我家の小さな庭は悲しい状態でしたが、最近業者の方にデザインしていただき、広く明るくなった毎日元気いっぱいの野菜で味噌汁や

庭には数年前に植えたイチジクの日、リスが塀からイチジクの木に食べていました。「ダメ！ダメ！」逃げもせず食べ続けていました。



庭を野菜や花でいっぱいにしました。サラダを楽しんでいます。

がたくさんの実をつけています。あ飛びついて実をもいで塀の上で夢中と叫んでも一向に構うことなく、逃

またロビンや数種類の小鳥たちが時々我家の庭に集合し、ミミズをあさったり、草の実を探します。蝶々も飛んで来ます。蝶々が野菜に卵を産み付けていくのが問題です。

庭を見ていると長い時間何も手につかなくなってしまうますが、心安らぐひと時です。

悲報

今年は7月までに、元捕虜関係の友達が3名亡くなりました。田口晴恵と私はドリス・シェパードの葬儀とバーバラ・ウィーンンの追悼式に出席しました。ノーマン・バロウズの葬儀の日程が近づいています。「Agape三重」の方々は

ドリスと親しくしていました。憎しみいっぱいだった人たちが日本人を赦し和解し、日本を愛してくれていました。こちらでは、親族のように親しくなった方々とうとうお別れの日々を迎えています。

6月にドリス・シェパードの葬儀がありました。彼女兄さんは捕虜となり帰還することなく世を去りました。ごとドリスはとても仲の良い夫婦でした。パラダイス・ランも来てくれ、認知症を患うまでのドリスは自家製クッキーで、食卓を飾ってくれるのが常でした。レンにとって年老人残されるということはどんなにか辛いことでしょう。幸いレンが落ち着くまで一緒に住んでくれました。ドリスは享年



の大好きなお主人のランチにはいつも持って来てから一なことに娘さん88歳でした。

バーバラ・ウィーンは小児麻痺を患っていましたが、非常な努力家で歩けるようになりました。私がお会いした頃は、行動派のおばあちゃんでした。捕虜だったご主人とは帰還後に結婚。不幸にもご主人が4



人の幼い子供達を残して病死。彼女は一人で子供達を育て上げました。バーバラは和解の旅にも参加しました。アガペの事務所がロンドンのビジネス中心街にあった頃、彼女は

Devon北、遠くからよくロンドンに出て来て、お芝居を見たり、人に会ったりしていました。私にも会いに来てくれ、お芝居に誘ってくれたこともありました。彼女は70歳の時ビルマに行き、ビルマの小児麻痺の子供達を助けるためにサイクリングをし、当時5千ポンドの寄付を集めました。その他多くの慈善活動を続けてきました。彼女は遺体を病院に寄付し、葬儀はしませんでした。6月25日に彼女の教会で「感謝式典」があり、田口晴恵と私がアガペワールドを代表し出席しました。89歳でした。

7月に英国でただ一人頑張っていたイルカボーイ、ノーマン・パロウズ（もうすぐ99歳でした）が死去しました。田口晴恵と共に数度彼と彼の息子夫妻を訪問しましたが、いつも一泊させてくださいました。またこの3月には息子のダニエルと訪問しました。「夏にまた来てください。庭

でピクニックしよう」と言って、ノーマンは身体の節々の痛みを耐えつつ、夏を待っていました。

今は老いて痛んでいた体も若返り、なんの苦しみもない天国でイエス様と一緒に

す。奥さんとも再会でき、捕虜仲間とも楽しい語らいをしていることでしょう。彼はクリスチャンでした。私たちは信仰のことも話し合いました。

私の知る限りでは、オーストラリアに移住している、ジョン・クレイグが唯一の生きているイルカボーイです。先のニュースレターを読んだジョンと奥さんのジョーンはノーマンに電話してくれていました。

マルコム（ノーマンの息子）のメール・アドレスは：MB84661@aol.com

クラシック・コンサートと 午後の紅茶

私の教会では、年に4、5回「クラシック音楽と午後の紅茶」というお年寄りを対象にした催しがあります。いつも著名な音楽家が招かれます。

今年6月にはバッハやシューベルトのピアノとチェロによる演奏会が開かれました。ケーキやサンドイッチは教会員が作り、教会のボランティアが可愛いエプロン姿で給仕してくれます。

この催しは、ある教会員の方が、一人暮らしのお年寄りを自宅に招き、音楽家を呼び、アフタヌーン・ティをサービスしていましたが、どんど



ん人数が増え、6年前から教会で行うようになりました。多い時では千人以上入る教会が満席になることもあります。チャールズ王子の奥様がいらしてお年寄り一人一人に話しかけたこともありました。以前元捕虜のおじいちゃんたちも参加して共に音楽と紅茶を楽しんでいましたが、最近では元

捕虜の出席者はただ一人になってしまいました。

日本からのお客様も、この催しをととても喜んでくれています。

父と入鹿（イルカ）ボーイズ

嶋 洋文

私の父と入鹿ボーイズの関係につき、述べたいと思います。

父は1914年（大正3年）にカナダのバンクーバーに生まれ育ちましたが、1933年に家族と一緒に日本への永久帰国の道を選びました。父は1944年から1945年までの戦争中は、入鹿収容所で英語通訳をしていました。終戦後には、父はその英語能力を生かし、さまざまな国際的な仕事に就きました。その後、京都にて英語塾を開設し、約50年英語を教えておりましたが、1998年に逝去しました。その間延べ千人を超える生徒を教えたものと思います。



1990年に突然、訪日の入鹿ボーイズたちと、終戦後初めて再会できる機会を得て、父は驚きつつも大変に喜びました。私も両親と一緒に入鹿での慰霊式に参加したことから、父の興奮を間近に実感することができました。

生前の父が何回も話をしていたのは、私の姉である麻千子とイルカボーイズとのことでした。姉は1945年1月に入鹿で生まれたのですが、まもなく重い病にかかりました。入鹿収容所には軍医

のRobert J.S.Wilsonが捕虜としておられました。彼は姉に治療を施してくれ、お蔭で姉は一命をとりとめました。このエピソードが示す通り、戦争中にも拘わらず、収容所の捕虜たちと、父の間では国の違いを越えての友情が存在していたのです。父の遺品ファイルには、入鹿ボーイズから受け取った多数の手紙やクリスマスカードなどがあります。私としては、この遺品をきわめて貴重で良い思い出として、永遠に保存することとします。差出人の多くの手紙やカードは、コピーしてイルカボーイズのご家族にお送りしたいと思っています。

さて、入鹿ボーイズの一人Jimmy Walkerの著書“Of Rice and Men”に

は、入鹿収容所の通訳として、「SHIMA」と記載されおり、まさに永年に渡り記憶されてきたものでしょう。

最近ノーマン・バロウズと彼の家族を紹介され、親しくメール交換をしてきました。この度ノーマンが亡くなられ、残念に思います。

恵子ホームズが入鹿ボーイズを日本に招待したいと発案され、周囲の方々の支援を得て、その夢を実現されたことに、感謝の意を表したいと思います。

人生は不思議

田口晴恵

私は東京の下町、千住に生まれました。戦前、浅草の和菓子屋で働いていた父は家の台所で和菓子屋を始めました。お砂糖などなかなか手に入らない戦後の中、どちらかというときめの和菓子はその美味しさが喜ばれ、次第に地元のお菓子屋として大きくなりました。家族全員が働き者の中で次女の私は甘えん坊で商売には不向きでした。一年中忙しい和菓子屋を頑張りやの姉に任せ、私は日本を脱出し憧れの外国へ旅経ちました。

1972年、私は横浜から船でナホトカ、そして飛行機でモスクワに入りました。それから陸路汽車でポーランドなどを経てロンドンに向かい、着いたのはちょうど22歳の誕生日でした。

1976年に勤め先で知り合った英国男性と結婚しました。主人の両親をはじめから私を暖かく受け入れてくれ、敵国人との結婚ということで心配していた母とも親しく交わることが出来ました。結婚10年後、主人が脱サラして和菓子屋をやると言い出しました。7月には長女の産産を予定していましたが日系航空会社の事務職を続けました。



6年後、次女が誕生してまもなく経営困難で人員削減をやむなくされた航空会社から解雇されたのを機に和菓子業に専念することを決意しました。

振り返ってみると、人生は本当に不思議だと思います。家族が揃うのはお正月くらいしかない和菓子屋を逃れたはずの私なのに、ロンドンで「どら焼き」を製造販売して今年で30年！最近は商売を若い人に任せて自分はのんびりと週3回、2歳の孫の面倒をみて楽しんでます。歴史は繰り返すと言いますが、まさしく祖母が私の両親を助けて私達の面倒をみてくれたのと同じ事を私もしています。

恵子・ホームズのアガペの活動は聞いたことはありましたが、個人的に知るようになったのは聖書を学ぶ会でお会いしたのがきっかけです。アガペワールドの会計を担当しながら、元捕虜関係者の訪問、葬儀出席、事務の手伝いなどを行っています。恵子の歩まれたアガペの癒しの旅は「生ける神」があつてのことと信じます。アガペワールドのためにお手伝いできることに感謝し、主のさらなる御導きを祈ります。

恵子・ホームズを迎えて

5月29日（日）の午後、大野キリスト教会において、恵子ホームズの証を聞く時を持ちました

恵子は今までも大野キリスト教会で、祈り会、JWTCのクラス等でお話をしています。又、バザーの時にはアガペワールドのブースを出させていただきましたので、大野キリスト教会の方は恵子ホームズ（アガペワールド代表）をご存知の方は多いと思います。

今回は、ご存知なかった方、もっと良く知りたい方も参加して20人ほどが集っていただきました。恵子の証の後には色々な質問があり、皆さんとても興味を持って聞いて下さったのだと思いました。



中にはこんな質問もありました。「恵子さんがロンドンでの英全国捕虜大会に日本人として初めて単身で出席し、多くの捕虜だった方から罵倒を浴びせられたとき、なぜひるまず、そこに居続けることが出来たのですか？」それに対して恵子は「イエス様のレッツ・ゴー、一緒に行こう！という声に励まされ、イエス様が私の背中を押して下さったからです。」と答えていました。本当に主がともにいて下さったからこそ、そのような勇気と、使命が与えられ、今日

のアガペの働きが続けられているのだと、思いました。

今回驚いたことなのですが、大野キリスト教会の会員でイギリス人宣教師のメティカフ先生から50年以上前に弘前で洗礼を授かった方が出席されていました。そして恵子は去年、イギリスでメティカフ先生のご臨終に立ち会うことが出来たそうです。長年日本で宣教活動をされていたメティカフ先生を通して、このお二人が出会う事が出来たのは本当に素晴らしい神様のお導きだったと思います。そして、来年9月には、その弘前の教会に恵子が招かれることになりました。主の導きは何と素晴らしいことでしょう！ 小堀豊代子

クイーンの誕生日

クイーンの実事上の誕生日は4月21日ですが、6月10日が公の誕生日でした。90歳になられた女王様を、3日間英国中が盛大にお祝いしました。90歳とは思えない若さでいつもにこやかに業務をこなしておられるクイーンが、国民に、また他の国々の方々に非常に愛され、慕われています。いつまでもお元気でいてくださいますようにと祈ります。



エリザベス・ハレット&ローナ・エバンス訪問

エリザベスの父親は北海道で捕虜でした。彼女は私をよくお茶に誘ってくれ、捕虜関係者を次々に紹介してくれています。先日紹介されたウ仕事の関係で日本で生まれ、11歳の時父た。当時は日本と中国との関係が険悪でローナは10月で90歳になります。息でいます。毎年イースターには孫に会いの広い公園（ウインブルドン・コモン）ブル（言葉のゲーム）を楽しみます。日々の買い物にはバスで出かけ、iPadを愛用しEmailで通信します。幼い頃日本語が上手だったそうで、当時頂いた日本人形を大切にいまでも部屋に飾っています。



インブルドン在住のローナは、父親の親の契約が終わり、英国に帰りましした。その後捕虜だった方と結婚。子がロンドンに、娘がアメリカに住んにアメリカに行っています。彼女は近を散歩し、友達をお茶に誘い、スクラ

支援会よりご挨拶

主の御名を賛美します。

こちら東京は毎日30度を超える暑い日が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？いつもアガペワールドのためにお祈りとお支援を心より感謝いたします。前回12月のNLから半年以上が経ってしまいましたが、その間恵子はシンガポール、ジャカルタ、マレーシア、そして日本を訪問、現地の日本語教会や、日本の教会などと主にある豊かな交わりをもちました。

恵子は来年は7月から11月後半まで日本に来る予定です。もし、皆様の教会や、学校、グループなどでお話しさせていただけたらと思っております。もし、そのような時を持つことが出来るようでしたら、アガペワールド日本代表の小菅、または支援会の小堀までご連絡ください。

まだ暑い夏が続きます。皆様どうぞお体をお大事にお過ごしください。
アガペワールド支援会



ご協力くださった教会

本郷台キリスト教会、愛のいずみキリスト教会、ホームチャペル・エリム、久遠キリスト教会、主イエスキリスト教会、一麦東京教会、ニューライフファミリーチャーチ、シンガポールJCF、IJCS（シンガポール国際日本語教会）、ジャカルタJCF